

第 174 回通常国会の閉会にあたって（談話）

－参議院選挙で要求の実現をめざし職場から政治の風を吹かそう－

2010 年 6 月 16 日

日本高等学校教職員組合

書記長 藤田 新一

6 月 16 日、第 174 通常国会が閉会しました。今国会を通じて鳩山首相は、沖縄の普天間基地、労働者派遣法、後期高齢者医療制度、政治とカネの問題などにかかわって国民のごうごうたる批判を招き、退陣せざるをえませんでした。

これは、昨年の総選挙で自公政権を退場に追い込んだ国民の世論と運動の力を示すものです。鳩山首相の退陣を受けた菅首相は、民主党政権への国民の批判に対する反省もなく、いっそうアメリカと財界いいなりの政治に踏み込んでいます。

政治の焦点は、6 月 24 日公示、7 月 11 日投票の参議院選挙に移りました。参議院選挙は、私たちの切実な要求を実現する上でも、憲法を守り生かす政治を実現する上でも極めて重要な意義をもっています。

参議院選挙で問われているのは、第 1 は平和の問題です。普天間基地の即時撤去か、それともアメリカいいなりに名護市辺野古周辺に新基地を押し付けるのかです。

第 2 はくらしの問題です。財界いいなりに大企業の法人税減税、消費税増税をすすめるのか、それとも軍事費の削減、大企業に社会的責任を果たさせ内部留保を社会的に還元するのでしょうかです。

第 3 は教育の問題です。教育費の負担軽減を求める国民の願いに応じて教育費の無償化、教育条件・教職員定数の抜本的改善のために、教育予算を OECD 並みの水準に増やすかどうかです。

平和の問題でも、くらしの問題でも、教育の問題でも、国民の立場から要求実現を阻んでいるのは、日米軍事同盟、財界中心主義の政治です。アメリカ・財界いいなりの政治を続けるのかどうかも問われています。

参議院選挙で、子どもと教育、労働者・国民、教職員のくらし、日本の平和と民主主義を守る政治を実現するために、要求実現の立場から職場で政治論議を大いにすすめることを呼びかけます。

以上